

タイ・スィーパトゥム大学での T.A.について

杉本沙和子

夏期休業を利用し、約1ヵ月半、タイ国スィーパトゥム大学教養学部外国語学科日本語科において、ティーチングアシスタント (T.A.) を務めさせて頂きました。

平日は、大学で教案作成や授業準備、反省会、模擬授業などを行ったり、授業時間外にランゲージパートナーとして学生さんと日本語で話す時間を設けたり、他日本語教育機関で教鞭を取ってらっしゃる先生方のお話を聞かせて頂いたりしました。また、休日は、J-Education への参加や、国際交流基金センターでの日本語教育研究会への参加、学生さんにバンコクの観光案内をして頂くなど、忙しくも充実した日々を過ごせました。

私を含め7名のT.A.生が1人ずつ各クラスに入り、直説法で授業を行いました。日本語で日本語を教えることの難しさを改めて体感し痛感し、どのようにすれば学生さんに伝えられるか、理解してもらえるか、思索してばかりでした。それでも、毎回大きくなる学生さんの反応や、先生方の助言を励みに、授業を行いました。

期間中は、学生さんの家でホームステイをさせて頂きました。屋台料理や学食はもちろん美味しいのですが、お母様が作られた料理の美味しさは格別でした。近所の子どもたちにスポーツや日本語を教えるなどしながら、タイの一般家庭の生活を存分に楽しみました。

これら多くの貴重な体験及び経験が、日本語教師としての在り方にとどまらず、自身の将来を考える際においても影響を与えています。曖昧だった自分の考えや思いが、確固たるものへと変わったと確信しています。

素晴らしい機会を与えてくださった先生方はじめ、スィーパトゥムの学生さん、T.A.仲間にも厚く御礼申し上げます。

